平成２５年度中学生・高校生の国際理解・国際交流論文
中学校の部　最優秀賞

Change the world.
－マララさんから学んだこと－

いわき市立中央台南中学校
３年　佐藤　眞理

「一人の子ども、一人の先生、一冊の本、一本のペンが世界を変えることができます。」と国連で演説した少女。その映像をたくさんの人が目にしたことだろう。まっすぐな目で堂々と話す彼女の姿に、私の目はくぎづけになった。

そして、私は昨年秋に読んだ新聞記事を思い出した。

－銃撃された少女、意識を回復－

そこには、負傷してベッドに横たわる少女の写真と、「アイ・アム・マララ」のカードを持った子どもと女性たちの写真があった。少女は、マララ・ユスフザイさんといい、彼女はパキスタン・イスラム共和国に住む中学生だった。この国には女性が学校に通うことを認めようとしない武装勢力が存在する。それにおびえながら登校する日々をブログに掲載していた彼女は、彼らに命をねらわれたのだ。

ただ、学校に行き、そこでいろいろなことを学びたいという、私たちにとってはごくごくあたり前のことを思っただけで銃弾をあびせられたのだ。命をねらわれる中学生の存在も、また、中学生の命をねらう武装勢力の存在も、平和な日本に住む私にとって想像の域を超えていた。学ぶことが命がけの行為だなんて、私の日常では考えられないことだからだ。

どんな背景があるのだろう・・・。調べてみると、宗教、民族、内戦など複雑な歴史が深くかかわっていることがわかった。

みなさんは、知っているだろうか。世界には１億２０００万人もの子ども（今の日本の総人口とほぼ同じ）が、学校に行けないという現実を。しかも、女性には教育が必要ないと考える国が今現在もたくさんあることを。

そんな厳しい現実からの脱却を求め、「アイ・アム・マララ」の声を上げ、立ち上がった多くの女性たち。ひとりひとりの声は必ずしも大きくはないけれど、声をあげることで不条理な考えや、理不尽な世の中を変えることができると強く信じ行動する姿に、私は胸が熱くなった。また同時に、私も同じ女性の一人として教育や平和について、世界という単位で考えなければならないと思うようになった。

世界の教育問題について調べていくうちに、私は国連で定められた「子どもの権利条約」や、「ミレニアム開発目標」の存在を知った。これら二つは、子どもたちの保護と権利を守るために作られたものだ。「生きる権利」「育つ権利」「守られる権利」「参加する権利」

を約束した国際的なきまりであり、地球上のすべての人が、平和で健康に暮らせるようにとの願いが込められている。

世界中には、今もなお、厳しい貧困と飢餓が実在している。教育、保健、医療、環境などの面でも問題は山積みだ。「ストリート・チルドレン」「児童労働」「薬物中毒」「人身売買」など、貧困が根底にある数々の問題。それらが子どもたちをとりまき、苦しめている。このような苦境に立たされている人々を単にあわれむのではなく、同じ地球に住む一員として共感し、問題を共有することこそが、私たちに一番必要だと考える。

マララさんは語る。

「武装勢力は銃弾で私たちを黙らせようとしましたが、失敗しました。逆に私の中には、強さ、力、そして勇気が生まれました。テロや暴力、貧困をなくすための唯一の解決策。それは教育なのです。一人の子ども、一人の先生、一冊の本、一本のペンが世界を変えることができます。」と。

女性の就学率が上がれば、乳幼児の死亡率は下がるというデータがあるそうだ。正しい知識が命を救い、貧困克服、自立への足がかりになるからだろう。

すべての人が人間らしく尊厳ある生活を送るために。また、より高いスキルを身につけて自分の力で貧困から脱出するために。そして何よりも、平和な社会を築くためにも、教育はすべての人にとって不可欠なものだと思う。つまり、一部の人だけでなく、世界中のすべての人が、生きがいや希望を持って平和に暮らせる社会の実現は、教育の力によるところが大きいのだ。

昨年の夏、私はオーストラリアにホームステイをした。ステイ先の家族のあたたかさにふれながら、私はオーストラリアの自然や歴史、アボリジニーの文化など多くのことを学んだ。また、学校の授業や日常の会話の中では、言語学習の大切さはもちろんのこと、お互いの文化や民族を認め合い共感することの大切さを実感した。異文化の空間に身を置くことで、自分の国や文化についてはっきりと意識するようになった。

また、これまで私は、勉強イコール自分の夢をかなえるためだと思っていた。そのことが大前提であることは確かだが、しかしそれだけではないことに気づいた。知識を得るという行為は、自分自身を守り、他者への理解を深めるものだと思うようになった。

日本は今、たくさんの国際問題（貿易や領土問題など）を抱えている。平和維持の精神を土台に、自国の考えをどのように伝えていくのか、他国とどのように向き合っていくのかがますます重要になるだろう。相互理解の意識を持ち、地球レベルでの交渉ができることを私は期待している。

「アイ・アム・マララ」

無関心や、現実回避からは、平和な世界を築くことは不可能だ。マララさんの演説や記事に出会わなかったならば気づけなかった世界の現実。これを機に広い視野に立ち、世界の諸問題を考え、自分なりの意見を持てるような勉強をしていきたいと思う。私は、マララさんの不屈の精神を、希望を決して忘れない。

Change the world.

私たちには、未来を変える力があるのだから。